



おくみかわこうげん 奥三河高原 ジビエの森

「10年の歩み」と
「今後の展望」



目的

獣害対策、地域の食文化の継承、地元雇用の創出、観光資源としてのジビエ
2015年4月創業

主な取組

○ スタッフによる捕獲・搬入支援

止め刺し立ち合いから施設搬入、商品化、販売までを一貫して実施
農業者からの被害相談に応じた捕獲活動も実施

○ 衛生管理と品質確保の取組

「野生鳥獣肉の衛生管理に関する指針（厚生労働省）」、「愛知県野生鳥獣肉衛生管理ガイドライン」など関係法令を遵守

止め刺しについては必ず現場で立ち合い。原則1時間以内に施設搬入

○ 地域連携によるジビエの普及

地域イベントへの出店、視察の受け入れ、地元高校生との共同販売

ふるさと納税返礼品として提供、ネット販売、道の駅、旅館・レストランへの卸

活動の成果

	2015年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ニホンジカ	108頭	342頭	399頭	369頭	444頭
イノシシ	95頭	—	—	—	—
売上高	5,883千円	11,080千円	14,150千円	14,150千円	15,800千円

安全でおいしいジビエを提供するために

- 解体処理技術向上のため各種講習会を開催、熟練者から後継者へ技術の伝承
- 個体識別番号による捕獲処理状況の管理
- 金属探知機による検査（鉛玉の検知）



ジビエの国内統一基準を検討した「国産ジビエ流通規格検討協議会」に参加（2017年）

具体的には . . .

衛生管理、地域連携

商品開発



今後の展望

○ 持続可能な地域づくりへの貢献

新たな狩猟者の育成（高齢化する狩猟者の技術の伝承）

運営体制の強化 → 加工、販売事業従事者の確保（移住者へも積極的に声掛け）

管理体制の強化 → 法人化を目指す

○ ジビエのさらなる普及とブランド化

愛知県内の他施設との連携強化

ペットフードなど新たな需要の開拓

○ 地域イベントやネット販売の拡大

ふるさと納税返礼品に求められる商品のニーズを的確に把握